

【活動報告】

東ブロック（中央区・天王寺区・浪速区・東成区・生野区・城東区・鶴見区）

『**連携しやすい環境づくりを 7区の連携で**』

連携しやすい環境づくりを

7区の広域連携で



在宅医療・介護連携

相談支援室

大阪市東ブロック



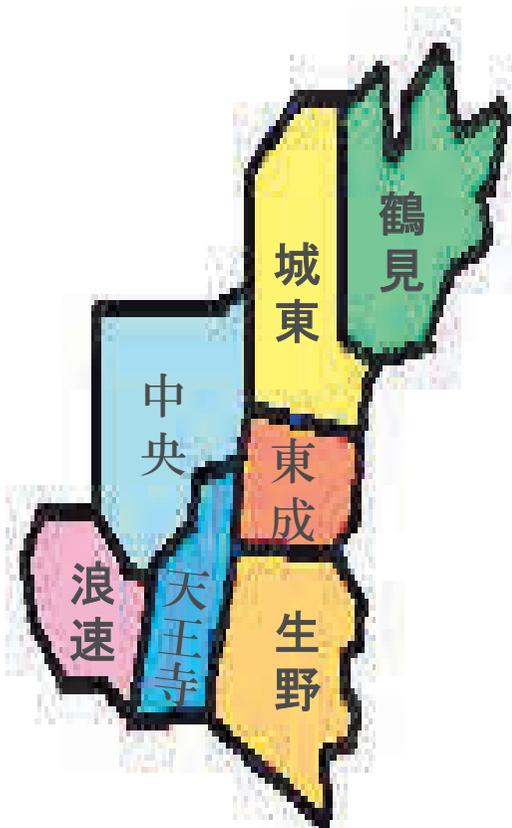
大阪市東ブロック コーディネーターの職種 〔勤務時間多い順〕

- 生野区 (看護師1名)
- 城東区 (介護福祉士1名 医師1名)
- 中央区 (看護師3名 医師1名 ケアマネジャー1名)
- 鶴見区 (MSW2名 看護師1名 ケアマネジャー1名)
- 天王寺区 (MSW2名 ケアマネジャー1名)
- 浪速区 (看護師2名 医師1名 ケアマネジャー2名)
- 東成区 (看護師1名)

市東ブロックの特徴 ① 人口動態

人口は大阪市計画調整局 推計人口

日本医師会JNA

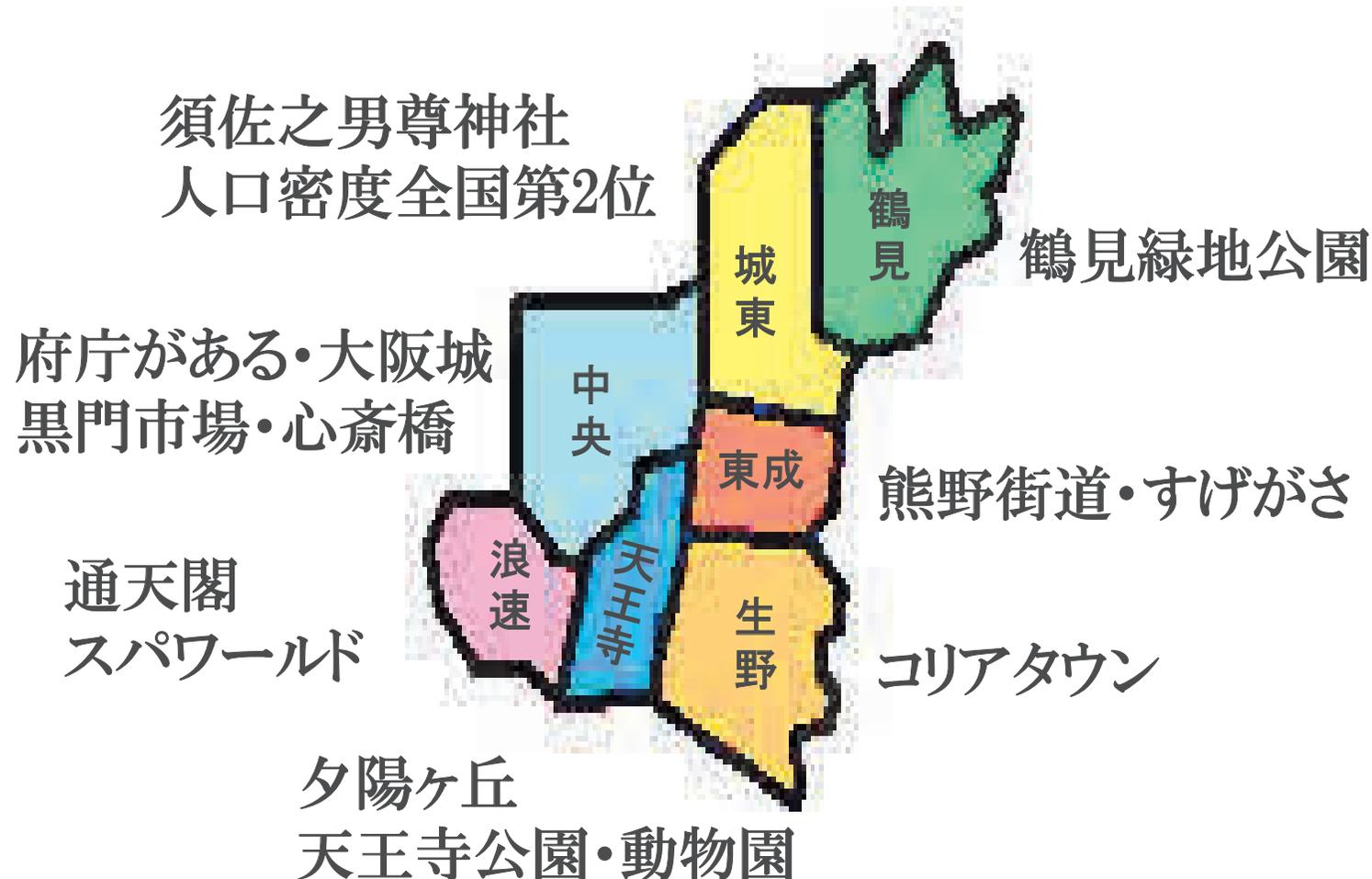


R4.12. 	人口(人)	65歳以上	高齢化率	2040/2020 高齢者 増加率(%)
中央	110,846	16,491	14.9%	150
天王寺	84,445	16,511	19.6%	143
浪速	79,392	13,883	18.4%	120
東成	85,611	21,328	24.9%	114
生野	126,738	39,678	31.3%	99
城東	167,976	42,877	25.5%	114
鶴見	111,654	25,968	23.3%	128
市東 ブロック	766,662	176,736	23.6%	124

- 大阪市4ブロックのうち人口最大 堺市81万人に近い
- 2020→2040年の高齢者増加率は 99～150%

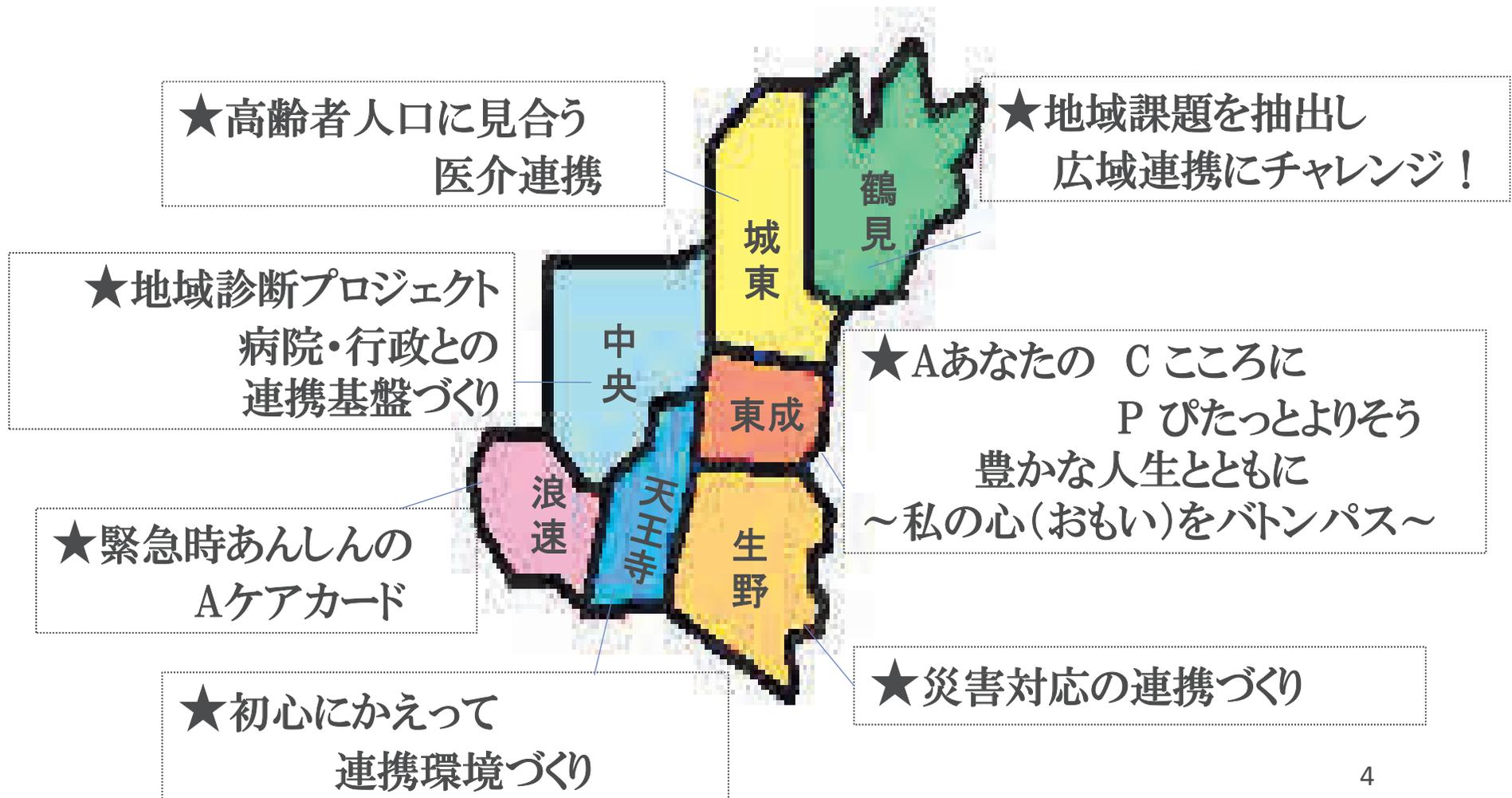
市東ブロックの特徴② どんな地域

経済・交通・医療介護とも日常的に交流がさかん



市東ブロックの特徴③ どんな地域

★近年の重点活動・思い



事業
6年目7年目

医療・介護資源の違いなど
それぞれ事業区により強み弱みが見えてきた

広域連携が必須ではないか

連携しやすい環境づくりのために

- 1、『れんけいのチカラ』～多職種連携ルールブック～
7区共同で作成(令和3年度)
各区で活用(令和4年度)
- 2、病院地域連携担当者との意見交換会
7区協働で実施(令和4年度)

まず、連携ってそもそも……の議論から始まった

- 地域ケアを担う職種が多分野に拡大、人と人の関係性の基本マナー・相手の職種を理解するためのルールをあらためて確認、周知してみよう
- ICT活用の留意も必要
- 区単独ではしんどい、共同で作ろう。
データ作成まで共同し、あとは区ごとに印刷や付録を
- 河内長野市や横須賀市の冊子を参考に
- 配布の対象は
→利用者(患者さん)に関わる関係機関全職種



多職種連携ルールブック？ マナーブック！

冊子作成の協働・連携の楽しさ

- 表紙・イラスト・字体・内容決めるのに侃侃諤諤^{かんかんがくがく}
- 各区キャラクターイラストの各区役所に使用承認依頼
- 共同モデルを作り、印刷・広報・付録は各区
- 各区受託法人の責任で活用
- ★ コーディネーターの状況いろいろ、
できる人ができることを分担
- ★ 職種・地域により思いが異なる
→ 職種・区が違うから、多様に考える事ができた
- ★ ZOOM・ハイブリッドで毎月、前後に悩みの相談
「こんなこと地域で起こってる」の情報交換

市東ブロック共同作成モデルの冊子

「れんけい」のチカラ

—多職種連携ルールブック—



印刷・広報・付録は各区で作成
区によってHPにアップ済のところも
あります。ご活用ください

～多職種連携ルールブック～の内容

1. 基本的な多職種連携のルール

- * 全ての職種の皆さんへ
- * 医師の皆さんへ
- * ケアマネジャーの皆さんへ

2. 入退院時の多職種連携のエチケット

- * 全ての職種の皆さんへ
- * 医師の皆さんへ
- * ケアマネジャー・訪問看護師の皆さんへ
- * 入退院時における医療機関の皆さんへ
- * 訪問介護・通所サービス従事者の皆さんへ



付録

- 医療・介護関係者間での ICTツール利用の基本
- 大阪市「在宅医療・介護連携相談支援室」24区一覧

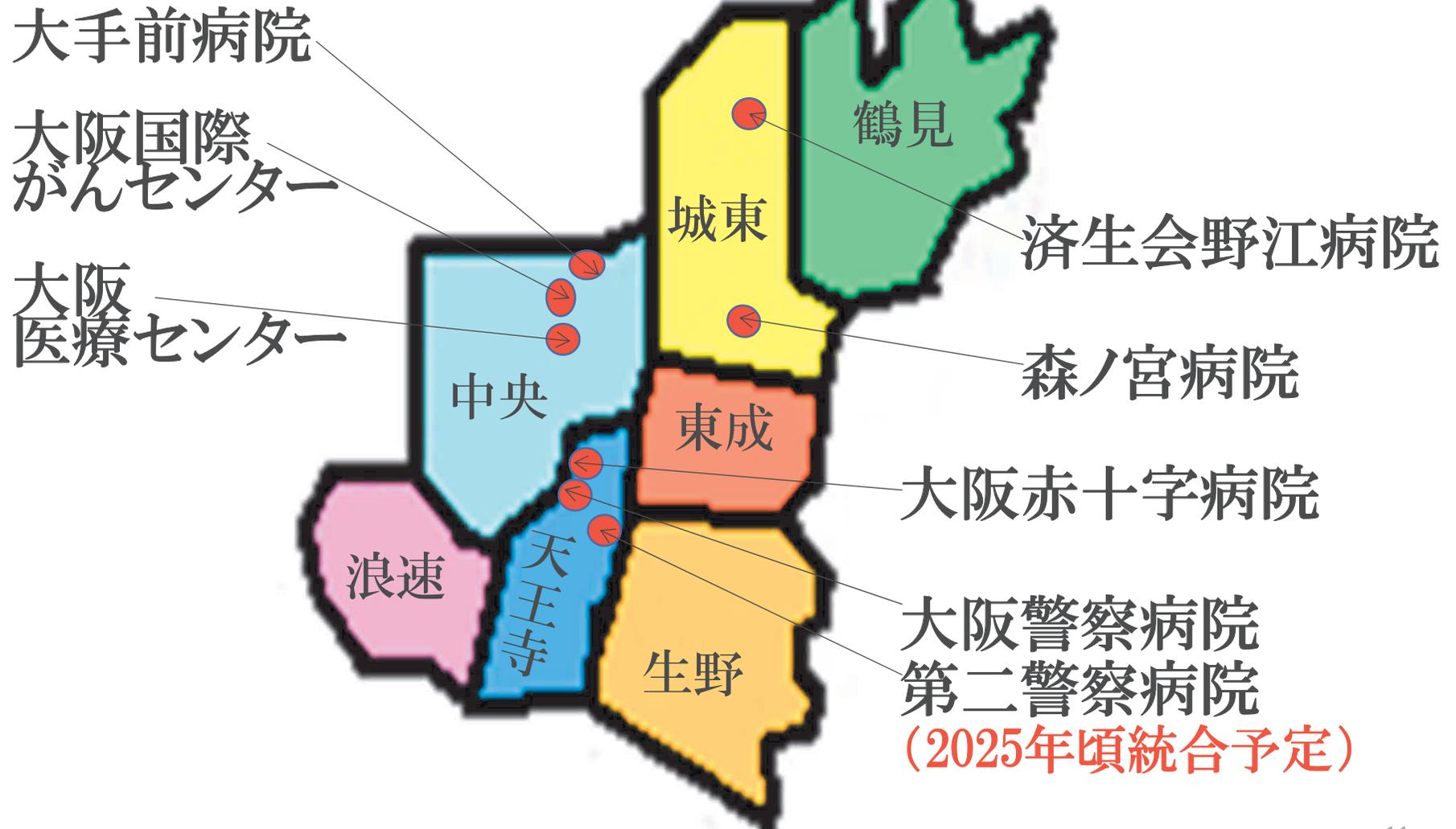
2、病院地域連携担当者との意見交換会

- 当たり前のことだが、それぞれコーディネーターは、自分の地域のことはよく知っている。しかし隣のことなのに病院など社会資源の詳細を知らない。
- すでに広域に、種々の機能を持つ病院からの相談、地域事業所から特に入退院に関わる連携のことでお困り相談



7区の病院機能や規模など出し合ううち
まず、300床以上の病院と意見交換会を
個別にやってみよう

300床以上の病院と意見交換会を計画 (個別)



在宅医療・介護にかかる 広域連携のための意見交換会

目的

1. 地域連携担当者に7区の在宅医療・介護連携相談支援室(コーディネーター)の顔と各区の特徴などを知っていただく
2. 病院の入退院支援における現状を知り、広域における連携が円滑に行われるよう課題を共有、それぞれの活動に活かす

在宅医療・介護にかかる 広域連携のための意見交換会

結果

	病 院	病院地域連携	医介Co
7/ 5(金)参集	大阪赤十字病院	Ns(1) ほかHP	10
8/ 5(金)Zoom	大阪国際がんセンター	Ns(13)	7
8/19(金)Zoom	大手前病院	MSW(1) Ns(3)	8
8/26(金)Zoom	済生会野江病院	MSW (1) Ns(1)	7
9/ 2(金)Zoom	森之宮病院	MSW(2) Ns(2)	7
9/16(金)参集	大阪医療センター	MSW(3) Ns (5)	7
調整中	大阪警察病院	第二大阪警察病院	

6病院と6回 MSW(7)Ns(25)Co(46)

はじめての 病院との個別の意見交換会 ふりかえり①

- コロナ禍でも、双方にとって、広域に顔の見える関係が広がった
- オンラインでの交流の環境整備が進んだ
- 各区の特徴を説明する機会が持てた
- あらためて病院の機能、コロナ禍で工夫されている事などを聞き、病院側の苦労も知った
- 地域の事情を聞いてもらい、苦情も伝え、受け止めていただけた
- 9～20人の少人数で交流しやすかった

はじめての 病院との個別の意見交換会 ふりかえり②

病院への理解が進んだ ＜コロナ禍で頑張る病院組織の実態＞

- 患者（利用者）・家族の気持ちを最優先し、設備が不十分でもオンライン活用を早期に実践された病院もあった
- 感染状況や看取りなどの状況により、面会の工夫をされていた

はじめての 病院との個別の意見交換会 ふりかえり③

わかったこと

- 病院からみたコーディネーターの役割がまだまだ知られていない
- 病院と在宅の連携が進んでいる地域は、相談が少ないこともあるが、交流は必要
- 職種、立場、考え方は違っていても、患者(利用者)の気持ちに寄り添う姿勢を大切にしている
- 地域連携室と医介連携の在り方については、その都度
の場で考え、変化・進化することが大切

今後の具体的課題

- 「いつでも何でもご相談ください」ではなく、
相談支援室に何を相談していただくか明確に
- 引き続き病院との交流が必要。次は、回復期リハ病院・
地域包括ケア病院(病棟)との意見交換会を予定
- ブロックで病院からの相談件数と内容を把握・検証
- 「れんけいのチカラ」～多職種連携ルールブック～ を区
ごとの連携推進に活用
- 地域連携室もコーディネーターも世代交代がある。
新人だから、慣れてないからでは連携が進まない。
相互に活用・補完できるように

今後の在宅医療・介護連携推進に向けたコーディネーターの思い

患者の思い
市民の幸せ
を
忘れない

- 専門職が制度や事業所(組織)方針とより良いケアの間での葛藤
- 地域で困難ケースや複合的な課題を抱えるケースを支える

専門職の困りごと・悩みを解決するための
医介コーディネーターを『3人目のワタシ』として
活用してほしい

7区が**連携・協働**して
病院含めた地域の専門職と**伴走**させていただきたい

連携の蓄積
歴史生かして

区の得意分野
生かして

初心にかえって、連携しやすい環境づくりを各区で

既に市北・西・南ブロックの
区とも共助あり

東大阪市など
東に隣接区
との連携も要

相談は大阪府域
他府県にまたがる

→対応できるチカラ
をつけていく

